

日本社会福祉学会事務局から

◆ 日本社会福祉学会 学会賞（2012年対象）の推薦について

学会賞（学術賞、奨励賞）は、顕著な研究業績をあげた会員の顕彰及び若手研究者の研究奨励を行うことによって、社会福祉研究の一層の発展に資することを目的としたものです。

来年度の学会賞選考に向けて、本学会会員を対象に、2012年1月～12月に公刊された研究業績の推薦をお願いいたします。推薦対象の「奨励賞」については、単著書部門と論文部門（いずれも共著可）の2部門を設けています。

学会ホームページに掲載している「日本社会福祉学会学会賞（2012年対象）の推薦について」の依頼文と「学会賞設置要綱」をご確認の上、推薦書により学会事務局宛にご推薦ください。自薦他薦をお待ちしています。（締切：2013年1月末）

◆ 年会費未納者の方へ：10月下旬頃、会費の再請求をいたします

4月中旬に2012年度の会費請求をいたしました。まだ、会費をお納めいただけていない方々に対して、第2回目の会費請求を行う予定です。

会費未納の方は、至急、お納めいただくようお願いいたします。

編集後記

中原中也の詩の一節に、「あゝ おまへはなにををして来たのだと…… 吹き来る風が私に云ふ」というのがある。2年間という任期は、最初は長いと感じていたが、いま振り返ってみると、ようやく慣れた頃に任期が終わってしまうようで、すこし後ろめたさを感じている。

もちろん、財団法人になって刷新された学会の組織や運営を軌道に乗せるために理事会内部での動きは慌ただしかったし、筆者が所属していた中部地域ブロックでも、複雑になった会計処理への対応や、機関誌を会員に無料で配布するための電子出版の準備などに腐心した。広報委員会ではホームページのリニューアルや、いま読んでいただいている学会ニュースのオンライン化、メールマガジンの創刊など、いくつかの新しい事業に着手した。けっして何もしなかったわけではなかったと思う。

でも、多くのことが「現在進行形」のままなのも確かである。この学会ニュースで訃報を何度かお伝えし、そのたびに「受け継ぐこと」と「引き継ぐこと」について考えさせられた。ひょっとしたら、研究や人生そのものが「現在進行形」の連続で、何を成し遂げたのかよりも、どう引き継ぐかの方が大事なかもしれない。そんなふうに分身を納得させようとしている。

2年間ありがとうございました。

（安井 理夫）